

黒目川の上流域について

東久留米市は、武蔵野台地のほぼ中央にあって、東京都心の西北部にあり、北多摩地区に属する人口約12万人の市です。

西から東になだらかに傾斜した地形をしており、中心部を黒目川、落合川が南西から北東へ向かって流れています。

黒目川は、東京都小平霊園内の「さいかち窪」を源流とし、落合川と合流した後、埼玉県の新河岸川に流れ込む荒川水系の河川です。所沢街道の都橋を境として、上流域を東久留米市、下流域を東京都が管轄しています。

荒川水系の位置関係



整備のきっかけは？

黒目川上流域の整備計画

東久留米市の黒目川上流域は、緑地広場、社寺や緑地保全地域に囲まれながらも、自然環境に恵まれた水辺に人が近づける状況がなく、大雨による浸水被害も発生していました。

そこで、平成11年に黒目川上流域を雨水幹線として整備することに併せ、**親水機能を付加した良好な水辺空間**の創出を図ることを目的に、市民、学識経験者により構成された「東久留米市黒目川親水化検討委員会」を設置し、具体的な整備内容についての検討が行われました。この検討結果に沿って、黒目川の上流域約2.1kmを3区間に分け、平成13年度から平成28年度にかけ、雨水整備を行い治水対策を強化するとともに、市民が水や自然にふれ合える水辺環境の整備を行いました。

どんな整備をしたの？

整備の内容

黒目川上流域の整備事業は、川に**雨水幹線としての役割**を持たせつつ、川の形状を生かしながら、人々が川辺に近づき、水と親しめるように整備していくことを目的としています。

黒目川は、豪雨の時などには、**大量の雨水を排除する雨水路**となります。そのような時にも遊歩道を安心して利用できるよう、増水が予想されるしんやま親水広場には余水路（黒目川二号雨水幹線）を設け、川の水が一定以上に増えないような構造にしました（下図参照）。

全域を通して護岸整備を行い、市民の方が安全に遊歩道を利用できるように作られています。

また、川と岸辺の状況から、**上流域全体を3つの区域**に分け、それぞれの特徴に合わせて遊歩道を整備してきました。市民の方が水辺まで降りられる階段や、川の景観を楽しみながら快適に散歩できる、ベンチ・トイレ・東屋等が設置され、憩いの場としての機能も配慮されています。

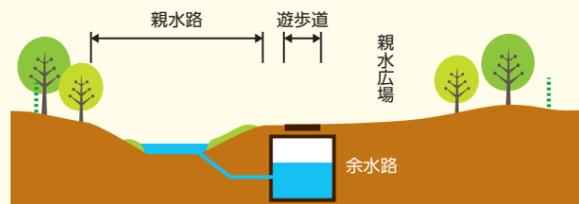
皆様、足をお運びいただき、散歩等を楽しまれてはいかがでしょうか。

親水路への改修 ネットフェンスで囲まれたコンクリート水路を撤去し、親水河川へ改修しました。

【改修前】

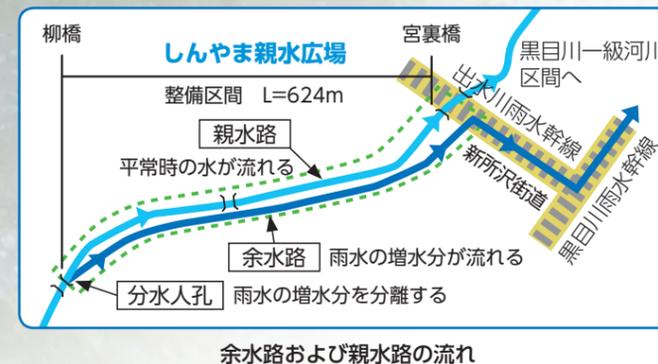


【改修後】



親水路と余水路について

大雨等により増水した雨水が直接、親水路に流れることを防ぐため、「余水路」という地下式の雨水幹線をつくりました。整備区間の最上流部に「分水人孔（分水マンホール）」という施設をつくり、ここで増水した余分な雨水を分離します。分離した雨水は余水路を流れて、「出水川雨水幹線」「黒目川雨水幹線」という下水道を通り、東京都が管理する下流側の黒目川一級河川区間へ至ります。



余水路および親水路の流れ